

オンライン研修「多様性が活かすことばの教育」 2025

研修B 幼・小・中・高の学びの連続性を保障する
ことばの教育

「第3回 アイデンティティと関係づくりを支える
～ことばの教育実践を通じて～」

令和7年8月3日(日)



第3回趣旨説明

〈研修Bの趣旨〉

日本語を学ぶ子どもたちの心身の成長発達や子どもたちを取り巻く環境をふまえながら、スムーズな学校での受け入れや指導事例、そして、幼・小・中・高等学校間の学びの連続性を重視した支援について、一緒に考えます。

本外国人児童生徒教育推進ユニットで作成した動画（参加者限定公開）の事前視聴と講義により基礎的な情報や知識を学び、実践例の報告・紹介を通して日本語指導や学習支援のイメージをつくり、ワークショップ型の活動を通して、明日からの指導・支援に生かせる具体的なアイデアを考えます。

なお、初めて日本語指導を担当することになった先生方や支援活動を始められた支援者の皆さんを主な対象として内容を構成しております。

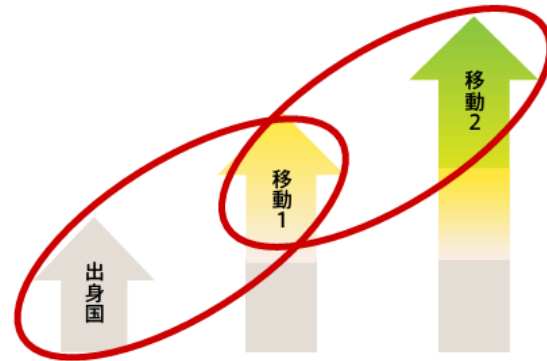
ー本ユニットHPよりー

縦軸（年齢的発達を支える）学習の連続性
学校種間の教育を接続することが重要

動画講座 2 より

縦 の学びの連続性

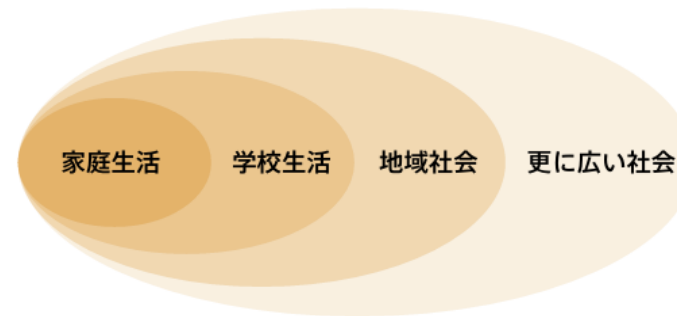
培ってきた力を、新しい学びに結ぶ



参考：齋藤ひろみ（2013）「文化間移動をする子どもたちへの日本語教育」
『月刊国語教育研究』No.490 p.17-18 をもとに作成

横 の学びの連続性

子どもたちの「社会」は拡張し、複層化
社会的関係の広がりにより、学びがつながる



横軸（他者・社会との相互作用による社会化）
公的な教育とそれ以外の場の接続が重要

2025年度研修B
幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育

第1回 6/8(日) …済

子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ
～初期支援と活動のアイデア～

第2回 7/6(日) …済

探究する力・自律的に学ぶ力を高める
日本語と教科の統合学習

第3回 8/3(日)

アイデンティティと関係づくりを支える
～ことばの教育実践を通じて～

(1) ライフコースの視点

2 文化間移動をする子どもの学び



研修で目指す資質能力について

「豆の木モデル」

外国人児童生徒等の教育を担う教員(指導員含む)の資質・能力のモデルとして文部科学省委託により日本語教育学会が構築・開発

現場の実践課題の解決には…

「捉える力」「育む力」「つなぐ力」

「変える／変わる力」という

4要素の総合的な能力が必要



資質・能力の4要素と課題領域		求められる具体的な力
捉える力	子どもの実態の把握	文化間移動と発達の視点から、外国人児童生徒等の状況を把握することができる。
	社会的背景の理解	外国人児童生徒等の背景や将来を、社会的、歴史的文脈に位置付けることができる。
育む力	日本語・教科の力の育成	外国人児童生徒等の実態等に応じ、言語教育に関する専門的知識に基づいて、日本語・教科の教育を行うことができる。
	異文化間能力の涵養	外国人児童生徒等と周囲の子どもとの相互作用を通して、双方に異文化間能力を育てることができる。
つなぐ力	学校づくり	保護者や地域の関係者と連携・協力して、よりよい支援、教育のための学校体制をつくることができる。
	地域づくり	異なる立場の人々と協働しながら、学習環境としての地域づくりをすることができる。
変える／変わる力	多文化共生社会の実現	社会的正義と公正性を意識し、多文化共生を具現化することができる
	教師としての成長	外国人児童生徒等に関する教育・支援活動を振り返り、自己の成長につなげることができる。



第3回研修

目指す「資質・能力」

第3回 8月3日 (日)	アイデンティティと関係づくりを支える～ことばの教育実践を通じて	子どもの実態の把握 捉える力 社会的背景の理解	イ 子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。 ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化と共に展望することができる。
		育む力 異文化間能力の滋養	タ 子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。 チ 子どもの文化間移動の経験や言語的文化的多様性を価値付け、周囲の子どもの学びに結びつけることができる。

言語ポートレート

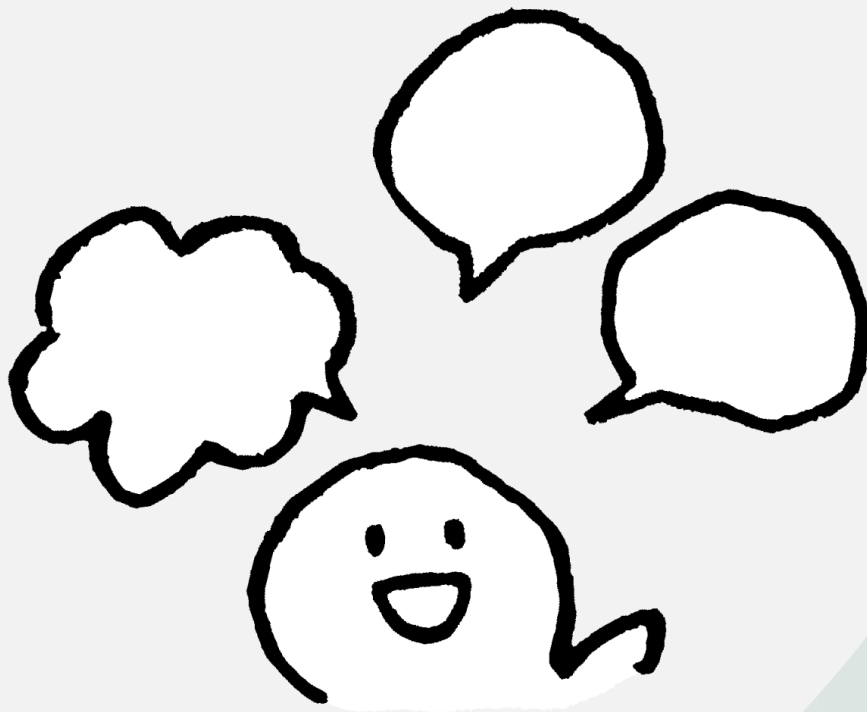


Busch, B., Jardine, A., & Tjoutuku, A. (2006). *Language Biographies for Multilingual Learning*. PRAESA.

Prasad, G. L. (2014). Portraits of plurilingualism in a French international school in Toronto: Exploring the role of visual methods to access students' representations of their linguistically diverse identities. *Canadian Journal of Applied Linguistics*, 17(1), 51-77.

ことばとアイデンティティについて考える ～長島先生のライフストーリーをもとに～

米本和弘（東京学芸大学）
yonemoto@u-gakugei.ac.jp



本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

事前動画のおさらい

アイデンティティとは…

1. 固定的なものではなく、他者との関係性や周囲の環境の影響を受けながら、常に変容を続けるものである。(=流動性)
2. 単一の要素で構成されるのではなく、複数の要素で構成されるものである。(=複数性)
3. 他者が決めるものではなく、自身で決めるものである。(=主体性)

アイデンティティとは何か？

自然的 (Nature-identity) :

基本的に変えようのない属性 (例: 女性、双子)

制度的 (Institution-identity) :

制度や規則に基づき与えられる役割 (例: 学生、教員)

言説的 (Discourse-identity) :

対話や行動を通じた他者からの認識 (例: 思いやりのある人)

共鳴的 (Affinity-identity) :

特定の集団への参加を通じて構築される意識 (例: 趣味仲間)

他者との関係性

「ある時と場所において、その人が「どのような種類の人」として認識されるかは、相互作用の中で瞬間ごとに変化し得るし、文脈が変われば変わることもある。そしてもちろん、その認識はあいまいであったり、不安定であったりする。」(Gee, 2000, p.99)

➡ アイデンティティは個人内部のものではなく、他者とのやり取りや評価によって形作られる社会的構築物

言語の役割

自然的 (Nature-identity) :

属性への意味づけ

基本的に変えようのない属性 (例: 女性、双子)

制度的 (Institution-identity)

言語による立場の定義

制度や規則に基づき与えられる役割 (例: 学生、教員)

言説的 (Discourse-identity) :

対話を通じた自己の内面化

対話や行動を通じた他者からの認識 (例: 思いやりのある人)

共鳴的 (Affinity-identity) :

共通の言語や用語による意識の醸成

特定の集団への参加を通じて構築される意識 (例: 趣味仲間)

流動性と複数性

「時と空間を越えて変容し、1人の人の中に矛盾しながらも共存する」(ノートン, 2013/2023, p.22)

➡ アイデンティティは, 時間(ライフコース)や場所(コミュニティ, 学校, 家庭など)の変化によって変わり続ける。



ことばの教育実践に関わる教員のあり方を考える
～アイデンティティと関係づくりを支えるために～

米本和弘（東京学芸大学）
yonemoto@u-gakugei.ac.jp

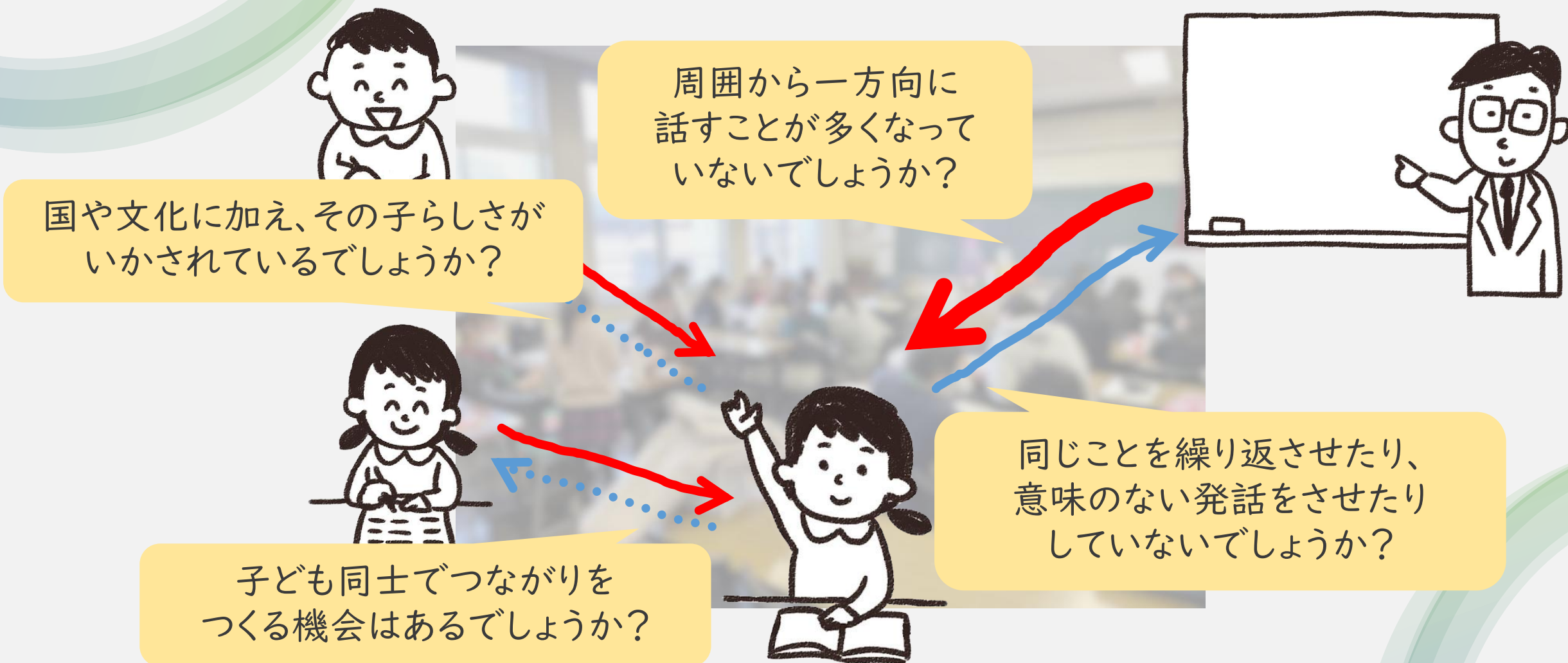
アイデンティティと日本語学習を考える

- ① 関係性を広げる
- ② ライフコースを考える
- ③ 資源を活かす
- ④ エージェンシーを育む
- ⑤ 市民性を育む
- ⑥ 場をつくる

どのようにことばの教育に
結びつけられるでしょうか。



視点① 関係性を広げる



視点② ライフコースを考える

- 横（関係性）の広がり
縦（将来像）のつながりを意識する。



視点③ 資源を活かす

- アイデンティティ・テキスト (Cummins & Early, 2011)
子どもの母語や文化的・個人的経験を用いた自己表現活動
→ 他者からの承認, 自尊感情の強化
- トランスランゲージング (García & Li, 2015)
子どもの持つ複数の言語資源を「ことば」として柔軟に活用する
→ 理解や自己表現の促進, 自己肯定感の向上

Cummins, J., & Early, M. (2011). *Identity texts: The collaborative creation of power in multilingual schools*. Trentham Books

García, O., & Li, W. (2015). *Translanguaging: Language, bilingualism and education*. Palgrave Macmillan.

視点④ エージェンシーを育む

エージェンシー（agency, 行為主体性）

「社会的な文脈の中で、変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」（文部科学省, 2023, p.11）



【自己の表出】身近なことや感情, 欲求を簡単な言葉で伝える

【意思決定】選択肢から自分の希望や意見を表現する

【協働】他者と対話し, 意見をすり合わせたり, 自己を変容させたりする

視点⑤ 市民性を育くむ

「『私は誰なのか』という問いは、『私は何をすることが許されているのか』という問いと切り離して理解することはできない。」(ノートン, 2013/2023, p.26)

- 「〇〇人」という視点を問い直す
 - 「〇〇さん」(個)として他者を見る
 - 自身の中の多様性に気づく

視点⑥ 場をつくる

異文化間接触が好意的なものとなるための条件 (Allport, 1954)

1. 対等な地位での接触
2. 共通目標を目指す協働
3. 制度的支援
4. 表面的接触より親密な接触